

(情報公開文書)

杏林大学医学部病理学教室では、杏林大学医学部倫理員会の承認を受け、以下の研究を行っています。

1. 研究課題:

空間トランスクリプトーム解析による大腸癌浸潤先進部における形質発現解析

2. 研究の目的:

大腸癌については、これまで様々な研究や治療法の開発がなされてきましたが、未だに多くの方が大腸癌でお亡くなりになっています。大腸癌の新たな治療法の開発するためにさらなる研究が必要とされています。

大腸癌のふるいまい方(悪性の度合い)は症例によってばらつきがあり、顕微鏡で観察される癌の形(病理組織像)が、悪性の度合いを知るための手掛かりになります。大腸癌を顕微鏡で観察すると、癌細胞が大腸の壁の中に浸潤する部位で、しばしば簇出(ぞくしゆつ)・低分化胞巣と呼ばれる、バラバラになった癌細胞あるいは少数の癌細胞から成る塊が認められ、これらの所見が多く見られる症例は悪性度が高いことが知られています。このように大腸癌の悪性度に関わる簇出や低分化胞巣について、これらの変化が起こる仕組みの詳細を明らかにすることは、今後の大腸癌の治療を開発する上で大いに役立つものと考えられます。

今回の研究は、近年開発された空間トランスクリプトーム解析と呼ばれる手法を用いて、大腸癌の浸潤部に見られる簇出・低分化胞巣の特徴を分子レベルで解明することを目的としています。

3. 研究の方法:

杏林大学医学部付属病院で、手術で切除された大腸癌を対象とします。病理検査(顕微鏡を用いた検査)を終えた後に病院で保管されている腫瘍組織を用いて、空間トランスクリプトーム解析を行い、簇出や低分化胞巣の特徴を分子レベルで明らかにします。さらに、腫瘍組織を使った免疫組織学的染色と呼ばれる手法を用いて、空間トランスクリプトーム解析で得られた知見を検証致します。

4. 研究期間:

西暦 2023 年 7 月 4 日～2028 年 3 月 31 日

5. 対象者及び研究に使用する試料・情報:

対象: 2020 年 1 月から 2023 年 4 月の期間に杏林大学医学部付属病院で外科的に切除された大腸癌症例

試料: 診断目的に採取された腫瘍組織(病理検査を終えた後に保管されている検体)

情報:診療録中の年齢、性別、検査データ、治療法、転帰、併存・合併疾患の有無

6. プライバシーの保護:

本研究では研究対象者の個人情報を匿名化したうえで検討を行います。学術集会や学術雑誌において研究成果が発表される際にも、対象者が特定されることはありません。

7. 研究対象者となることをご了解頂けない場合:

本研究の対象者となることをご了解頂けない場合には下記にご連絡下さい。研究期間中には、いつでも対象者となることを拒否できます。拒否をされた場合でも、今後の治療等に影響はございません。ご家族からのお問い合わせにも対応させて頂きます。

8. 本研究についての問い合わせ先:

杏林大学医学部病理学教室 柴原 純二

〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2

TEL:0422-47-5511(内線 3420)

FAX:0422-40-7093